道路愛護作業へ一提案

鈴木進一郎

聖戰達成の目論見が豫定の通り永引いて、社會組織の上に急激に而も大いに變化が起つた。之は舊きは廢れ新しきものゝ發生期に生ずる著しい現象で、國民はこの急激な變化に卽應する萬端の備は充分でなかつたであらうが、吾が國民生活は相當の彈力性を持つて居る丈けに、順次之に應じこの大きい試練も難なく乘り切る覺悟がついて、今やこの機構を肯定するに至つた。然し之は未だ色々な壓迫に堪へ忍ぶと云つた、極く消極的な氣構の範圍を出ず、進んで之が打開に乘り出すと云ふ迄に突き進んでゐない樣であるが、永い年月の間染めつけられたと言ふか燒きつけられたと云はうか、それを一時に晒し落すことは一通のことではないが、亞細亞の盟主となり安泰の日を見る迄には尙相當の日子と物心兩面に偉大なる力を要するであらうし、今後受くべき試練は一層重加されるであらうから、夫々の職能に應じて從來の域から拔き出て、積極的な氣構に轉向せねば相すまぬと思ふのである。こゝに大きな努力と堅い決心が新に必要なことは申す迄もない。殊に吾々が平素携はつてゐる仕事は、一般民衆から理解を得難い方面が多いので一段の苦心を要する。

私は嘗て道路愛護運動について色々考へてみたことがある。一般には仲々解り難い話であるし、個人の懷に直接響の少いことなので、うまく理解して貰へるかどうかと心配しながら熱心にやつてゐる內に、案外共鳴を得て是非自分の處から卒先して實行しようと云ふ處迄突き進んで來た、

實質的に似寄つた考へを持つ者のある所に力を得て、各所で同じ様に話して見ると、かなり熱心な者がゐて却て大いに鞭撻され、むしろ驚かされた。

道路愛護會が生れてこの方相當の月日が經つて、其の間種々研究と體驗が積まれてかなりの成長を見、普偏的に實行する迄になつた、これは道路改良會を中心として先輩各位の絶えざる努力のお蔭で、公物愛護心の涵養と之に依つて道路經濟の助かつたことは大きなものである。

然し詳細にその内容に足を踏み入れてみると、表面に表せないで内部で苦しんでゐる問題がないではない、會報で各府縣の報告を散見しても、その苦みの跡がよく窺はれるが、其の言ひ廻しは上手に美文で飾られてゐる爲めに、同じ苦みを舐めた者でないと其の底の氣持を摑み難いことが多い、これは其の府縣の持つ自尊心を傷けまいとする親心からであらうが、實際のものにはまだ〳〵數歩を進める餘地があり、新體制に依つて愈之が强化を計らねばならぬと思ふのである。頗る地道な仕事でパッとしないが、一府縣の行政の内で最も重要な部分だからである。

由來府縣の道路に對する豫算は、其の財政から割り出されて時代の推移に沿つてゐない、こゝ十數年間大同小異である。殊にこゝ數年間の激變に對してさへ別段の處置も講ぜられてゐないで、從來の豫算の内で齷齪してゐる。其の量は從來の六割乃至は七割にしか當らないから、如何に人的努力を拂ふと云ふても、この三・四割の穴埋めを何に依つて補ふかと云ふ問題はどこまでもついて廻るであらう。これは今回の事變に依つて、新しく與へられた問題ではなく、單に事變によつて拍車をかけられたに過ぎないまでのことで、常に吾々に課せられてゐた永い間の宿題であつたのである。このように地方の狀況は時代に順應する滿足の結果が望まれないのが定石とすれば、このまゝ泣き寢入りは絶對禁物だし、尙更當のないものを空頼みもして居られないので、自營の策を講ずるより外に手はない。數年前の所は南國のある縣でのことである。こゝでも同じような惱みを道路維持について舐めさせられてゐた、寧ろ地理的に

も其他の條件にも惠れてゐないので、その惱みは一層ひどかつた。何か對策はないかと色々首をひねつて見たが、之と云ふ名案が浮ばない、どこか逃げ場はないかと考へてみたが、應援の少い道路にはこれ又妙案がない。唯一つの團體である愛護會の內容を更に檢討して、何かこゝに光明を得たいと思つた、この會は早くから出來て、それ迄には色々な訓練が施されてゐた、作業としては年二回の愛護デーに依る一齊奉仕で、其の成績のよいものには年々之を表彰し、一層之が徹底を期するよう奬勵に努めてゐた。一度指令すれば一戶一人宛鍬を持つて意勢よく作業をする、其の眞面目さは感服させられてゐた。然しその作業を仔細に覘いてみると、他の府縣と似寄つた不便と惱みのあることがわかつた。之はむしろ愛護會そのものゝ責に歸せられぬことが多く、平素改良雜誌で見受ける樣な作業上の缺陷であつた。

それには先づ一齊作業を取り擧げてみたい。一縣又は一郡、或は一出張所單位で愛護デーを設けて一齊作業をさせる事は人の心理をキャツチすると云ふ精神上の效果はあらうし、單純な反覆する仕事に對しては集團作業は適當するかも知れぬが、道路のように一つの線に沿つて長く亙り、且つ幾つかの仕事を取混ぜて行ひ、其の上相當な工夫と仕上げに對し技術を要するものにあつては、一時に何千何百と云ふ、而も能力の異つた人々が出役しても之を統制指導することは至難である。勿論作業前會長、役員、區長と云つた連中と夫々連絡をとり、指導方針を與へるものゝ、其の多くは技術上の觀念がうすいのと餘りに顏見知りの人々の集りで、仲々ニラミガきかない。或る所では必要以上の人數が居るため、仕事が具合よく分配されないで、同じ所で重なり合つて作業をする爲に危險があり、統制がとれない。丁度一人の頭を刈るのに三、四人の床屋が總がかりで而もある者は鋏を、或る者はバリカンを持つた風景が想像される。又或る者ははまる餘地がない爲め、鍬をかついで右往左往する場合も出來る、この貴重な勞力を平均化し、仕事の分量を均一にして能率的な仕組にしたらと考へずに

は居られない。

次に働けば働く程鍬が傷み、その人の負擔が重くなる。一齊作業はもとより一町村、又は一部落が集團作業をするにつけても先づ必要なものは道具である。この澤山の人々にいちいち貸與することは容易な業ではない。勿論道具位のものは調達してやるのが當り前だと考へるが、お役所式な考へ方ではこれも見込はあるまい。結局各人持込みと云ふ外はない。道路は田畑とちがひ、石混りの硬土に鍬を入れるのだからたまらない。手辨當で奉仕した上に鍬迄傷められては個人經濟の響きがひどく腹にこたえる、農家にとつては鍬は立派な武器であるから、自然私物愛護の意識が働き勝ちなのは人情である。働けば働く程この矛盾が多くなる、これを知りつゝ愛護會の活動を促そうとすることは三重奉仕を强ふるに等しく、こゝにも考へさせられる何物かゞあるように思はれる。

次に愛護デーはお祭り騷ぎとなりたがる惧のあることである。一時に澤山の人が打ち揃つて仕事をする事は面白くもあり、何となく其の日は差別が撤廢されて、公平の負擔と云つた快感を覺えるであらう。この心理狀態を捕へて奉仕させると云ふことは一つの行き方に違ないが、之は新しいものゝ發生期には採るべき一つの手段であらうが、時代は既に過ぎた、愛護作業の歷史は相當永いのだから之が義務負擔であると云ふ精神は一般によく行き渡つてゐる。今更愛護デーと銘うつて宣傳的な非能率的な仕事をさせる時代ではないと思ふ。それに道路は生き物であるから年一、二回の作業によつて營養を與へる丈では、一時は滿腹しても次第にやせ衰へて眞の底力は出來るものではない。之を一年の間に引き延して毎日小量宛營養を與へることが生存に缺くべからざることである。

一俵の米を一日に喰へと云はれても困るし、以後喰はず飲まずで働けと云はれたら、それは尙更出來ない相談である。こゝにも考慮すべき餘地が殘されてゐるように思はれる。其他この尊い勤勞奉仕に對する精神や其の作業ぶりなぞについて、尙ほ細部に亙つては色々の缺陷が殘されてゐ

る。この種の仕事は總て義務的精神の發露であつて、褒められんが爲めでも恩を賣りものにしようとも思つてゐないのだから、其の精神のこもつた作業に對しては宜敷く報ゆると共に、將來一層激勵してやることにも深い考慮が拂はれねばならぬと思ふ。

以上の樣な宿題を未解決のまゝで、この作業をどしどし押し進めて居る所が多いではあるまいか、私がこゝに提案しようとすることは誰もがとうの昔考へたことであらうが、未だ其の實施を見た所を聞いてゐない。或は聞き洩らしてゐるのかもしれない、又實際問題としては出來ない相談だとして匙を投げたのかもしれない。要は前に述べた缺陷を除けば足るのである。口では至極簡單であるが、之を實行に移すには竝々ならぬ努力と覺悟がなければならぬから、兎角單なる理想論として葬られ勝ちとならうが、時代は正に一廻轉してゐるのだから、こゝに絶大な勇氣と努力を拂つて見なければならない。一言にして云へば一年一回一戸一人一日制とでもならう。之は從來の愛護作業を平たく引き延したと云ふだけのことであるが、其の內容の持ち行き方にはかなりの開きがある。人或は功利主義で愛護精神が失はるゝではないかとの論者もあらうが、眞の精神には何の變化を來すものではないと思ふ。無論未教育の愛護會にだしぬけに言ふてもそれは理解出來ぬかも知れない、つまり從來愛護デーに一齊作業してゐたものを一年間に平均化させようと云ふのであつて、年一回又は數回一齊作業してゐたものを一年間に隨時必要に應じ、適當な人數だけ出役して貰つて道路工夫の指揮指導に依つて有效に働いて貰はうと云ふ仕組である。

これに依ると從來の自由奉仕よりは、幾分窮屈さを感ずるであらう。又工夫に使はれるのを潔よしとしないと云ふ者もあらうけれ共、それは心の持ちやうである。道路の維持については立派なエキスパートであつて、他の追隨を許さぬ偉大な力を持つてゐる。勿論人格其他に於ては必ずしも大衆を指導する資格のない者もあらう。堂々たる大會社の社長が、一上等兵から軍事教練を受けるようなものであ

り、脊に負はれた兒共の差圖に依つて動く場合があつても變哲もないのと同樣であつて、眞の愛護精神はそんなものにこだわる筈のものではない。これには豫め愛護會員名簿を備へて置いて、工夫は適當に愛持區域を巡廻する大體に於て翌日の作業のプランが立つ、それに依つて必要な人員を作業地の愛護會と打ち合せて出役して貰ふと云ふ順序で、負擔の上では從來の集團作業の場合と變らない。然し從來の奉仕作業が非常に樂であつた所は多少負擔が重くなり、之に反する受持ち區域の處は却つて負擔の輕減となるわけではあるが、一日を奉仕の覺悟で出場してくれてゐたのだから、今回終日工夫と一緒に仕事をすることになつた一日だけのことだから、負擔の輕重を論する樣な問題とはなるまい。これにより指導上の不便と手數が省けて作業上の無駄がはぶけ、能率は正に百パーセントとなり器具についての心配もなくなるし、平素雇入れの修路人夫は殆んど之に依つて代用せられ、道路豫算を增額したと同樣な結果となり、土木費に對しては恒久財源を得た形となり、この難局を突破する大きな力とならう。

南國の或縣では本年初めから大體こんな趣旨で實行に移すことになつてゐる。其の實施方法については色々な場合を考へて目下着々進行中の筈である。遂に具體的結果を見ずに去つたので詳しい模樣は聞いてゐないが、努力家揃ひのことであるからうまく運んでゐるものと思ふ。其他道路費の財源を得るために空閑地の利用增進についての試みもあるそれは道路の法尻に棕梠を植え、これから得る棕梠皮によつて年額一萬五千圓位を得ようとする計畫を立てゝ、これも本年度から正式豫算を得て、その實施期に入つてゐる。棕梠は立派な街路樹となり南國の情緒を添へるにふさわしいもので、法尻に植へれば道路はもとより沿道田畑の邪魔にもならない、背は高く延び壽命も永い、勿論今日植えて明日からの收穫は望むべくもないが、いつかこれより收穫の上る日の嬉びがあるであらう。一本の苗でも懇に植えて置けば孫の代には立派な建築材となる、之を伐る孫の喜びの微笑の内にはよいお爺さんへの感謝が献げられる筈

である。吾々は誰でもこのよいお爺さんになり得る素地を持つてゐるのである。之も愛護會と結びつけてやつて行くのだから、行く行くは面白いものが出來上ると思ふ。之等の實施目論見について木村土木課長の懇切な御指導と激勵のあつたことは申す迄もないことである。

もとより筆不精者のことであるから、充分其の意をつくせないし、其の內容についても更に更に練り直さねばならぬ點が多いし、自分だけは確に間違つてゐないと考へることに案外大きな穴のあるもので、大方諸賢の御批評と善導を賜ることを得れば望外の嬉びである。

現在問題になつて居る新體制の場合はどうであらうか。明治維新に於けるやうな明確な激しい對立がないので、これが持つ歷史的意味は判然としない。だが新らしい內外政策を確立し斷行せねばならぬ點では明治維新に劣らぬ緊迫した事態におかれて居るのだ。この緊迫さが容易に國民一般から肯定されないのは、一つは現在の統制經濟、計畫經濟が歷史的な產物であり、昔の自由主義經濟には絕對にかへらぬことを充分に理解しないのと、一つは國防國家完成の爲の負擔を欲しないなら國家は滅亡する他はない世界情勢に在るのを理解しないからである。新體制に就いて人々は色々な構想をする。然し思ふに何故新體制が必然的なものであるか、といふところから國民一般に肚にのみこんでもらふ運動が先づ大切なのである。今のまゝでは問題が上滑りする危險が充分に存する、すべては過渡期である。今日は明日につながり、明日の上に明後日が築かれる。……現在の事態を臨時的だと考へてはならぬ、明日は決して昨日にはならぬ。非常時を臨時的、一時的と考へる位大きなあやまちはない。（平貞藏氏所論の一節）